

令和元年度第1回向日市まちづくり審議会議事録

1 審議会開催の日時及び場所

(1) 日 時 令和元年10月1日(火)

午後7時00分～午後8時30分

(2) 場 所 向日市役所 中部防災拠点2階会議室

2 会議を構成する委員数及び出席者の数

(1) 会議を構成する委員数 7名

(2) 出席委員数 6名

1号委員 岡 絵理子

〃 阿部 大輔

〃 大庭 哲治

2号委員 金田 龍一

3号委員 正野 暢夫

〃 五十棲 敏浩

[傍聴者] 0名

3 議事

第3次向日市都市計画マスタープランの策定について(付議)

令和元年度 第1回 向日市まちづくり審議会

日時：令和元年10月1日

開会 午後2時00分

○事務局 ただいまから、令和元年度第1回目の向日市まちづくり審議会を開催させていただきます。

本日は、大変お忙しい中、また、足元の悪い中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

私は、本日司会を務めさせていただきます、都市計画課の小澤と申します。よろしくお願いたします。

本日の審議会ですが、20時30分ごろの終了を予定しておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、議事に入ります前に、本日の委員の出席状況をご報告申し上げます。

本日の審議会を、所用により岡崎委員が欠席されております。

現在、ご出席の委員は6名でございます。向日市まちづくり条例施行規則第7条第7項に定める定足数を満たしております。よって、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

それではここで、本審議会に初めて出席されます、阿部委員を改めてご紹介させていただきます。1号委員の阿部委員でございます。阿部委員におかれましては、現在、龍谷大学政策学部の教授を務めておられます。

阿部委員、一言、お願いたします。

○委員 改めまして、阿部と申します。昨年の8月から今年の8月まで1年間大学の制度で外国に在外研究という形で行ってまいりました。先々月に戻ってきて、委員会には久しぶりの参加になりますが、よろしくお願いたします。専門は都市計画です。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、この後の進行につきましては、岡会長にお願したいと思います。

よろしくお願いいたします。

○会長　それでは、向日市まちづくり条例施行規則第7条第3項の規定によりまして、今後の議事の進行につきましては、私が議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本審議会は、原則公開で運営します。

本日の議事事項につきましては、向日市情報公開条例第6条各号のいずれかに該当して、非公開とすべき情報は含まれておりません。したがって、本日の会議を公開することといたします。

また、本審議会の会議録は、市ホームページにおいて公開となりますので、よろしくお願いいたします。

事務局、本日の傍聴者はおられますでしょうか。

○事務局　本日の傍聴希望者はおられません。

○会長　はい、わかりました。

それでは、最初に事務局から本日の議事、資料の確認をお願いいたします。

○事務局　本日の議事につきましては、「第3次向日市都市計画マスタープランの策定について」の1件でございます。

次に、資料の確認をさせていただきます。事前にお配りさせていただきました資料を、ご用意願います。

次第の裏側が配付資料の一覧となっております。各資料の右上には資料番号を振っておりますので、お手元の配付資料一覧をご参考にご確認願います。

資料は、事前に配付しました資料1-1、1-2となっております。

不足はございませんでしょうか。

それと、本日ですが、お手元に参考資料として、本日から運行がスタートしました向日市のコミュニティバス「ぐるっとむこうバス」のパンフレットをお配りさせていただいておりますので、ごらんいただければと思います。

資料に不足はないようでしたら、議長にお返しします。

○会長　それでは議事に移りたいと思います。

「第3次向日市都市計画マスタープランの策定」について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局　それでは、「第3次向日市都市計画マスタープランの策定」につきまして、ご説明させていただきます。お配りしている資料では、資料の1-1となりますので、ご確認お願いいたします。前のスライドにてご説明をさせていただきます。

初めに、第3次都市計画マスタープラン策定の背景・目的について、ご説明させていただきます。配付資料では1ページ目になります。

現行の第2次向日市都市計画マスタープランにつきましては、平成23年3月に策定されたもので、今年度末に計画期間が満了となります。

その間ですが、本市では、桂川洛西口新市街地が整備され、街の構造が大きく変化してまいりました。

また、長期的には本市も人口が減少するとともに、さらなる高齢化が進行することが予測されております。このため、人口減少による税収の減少や高齢化に伴う社会保障費の増加などにより、市の財政がさらに切迫するおそれがあり、持続可能なまちづくりを進めていく必要性が高まっております。

このような、街の状況や社会変化への対応を図るとともに、本市の最上位計画である、ふるさと向日市創生計画におきましても、今年度末で計画期間が満了することから、現在、第2次計画の策定が進められております。この第2次ふるさと向日市創生計画に即した計画とするためにも、第3次都市計画マスタープランを策定するものでございます。

次に、次期マスタープランの策定に当たって踏まえる事項について、ご説明させていただきます。

まず、(1)社会の潮流として、六つの項目を掲げております。配付資料では1ペ

ージから3ページ目となります。

まず一つ目ですが、「人口構造の変化」でございまして、全国的に人口減少や少子高齢化の進行が深刻化しておりまして、将来の財政悪化が懸念される中、都市計画の分野では「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考え方に基づくまちづくりや、中心市街地においても空き地や空き家が増加し、都市の魅力を低下させる都市のスポンジ化が懸念されている内容を記載しております。

二つ目の、「激化する都市間競争」では、人口減少社会が進む中、各自治体が将来人口を確保するため、さまざまな取り組みを展開しており、選ばれる都市として魅力的なまちづくりが進められている内容を記載しております。

次に三つ目、「暮らしの安心・安全に対する意識の高まり」では、地震や豪雨などの自然災害が近年多発していること、また、自動車等による交通事故や建物の防火等の偽装問題等の発生などにより安心・安全に対する意識が高まっている内容を記載しております。

次に四つ目、「ライフスタイルに対する意識の変化と観光交流活動の活発化」では、健康志向や余暇活動など、心の豊かさを重視する意識が高まっていること、また、余暇を利用した観光交流についても活発化している内容を記載しております。

次に五つ目、「持続可能な地方創生の推進」では、世界規模で社会問題となっている貧困や環境などについて、国連では、持続可能な開発目標が採択され、国においても地方創生の実現に向け、自治体のまちづくりに、この持続可能な開発目標の考え方を導入することを推進している内容を記載しております。

最後に六つ目、「官民連携の必要性の高まり」では、高度化・多様化する市民ニーズに対して、行政のみでサービスを提供していくことが困難になってきており、民間活力の導入によるサービスの提供や質の向上、コストの合理化などを図る官民連携を行政運営に取り入れていく必要性が高まっている内容の記載をしております。

次に、向日市の現況として、九つの分野を掲載しております。

配付資料では4ページから13ページ目になります。

まず一つ目の「人口の現況」では、国勢調査から本市の人口密度は1ヘクタール当たり69.1人と京都府内で最も高くなっていますが、本市においても長期的には人口減少と、さらなる高齢化が予測されているため、これらに対応したまちづくりが必要となっております。また、桂川洛西口新市街地の整備により近年、転入超過により人口が増加しておりますので、転入した人口の定着が重要になっております。

次に二つ目、「土地利用の現況」ですが、本市の土地利用の状況を見ますと、大部分が建物用地として利用されており、一部地域にまとまった田んぼがある状況となっております。このため、今後、地域の活性化のための新たな土地利用を図るには、農地などの既存の土地利用を転換する必要があります。一方、既成市街地では空き家の増加も見られることから住環境や景観の保全の観点から対策が必要となっているところでございます。

次に三つ目、「都市交通の現況」では、本市は鉄道の利便性は高いものの、そこに至る手段でもあるバス交通につきましては、路線ごとに運行本数に大きな差が生じており、今後の高齢化を見据えると身近に利用しやすい公共交通を確保していくことが求められております。

次に四つ目、「都市施設の現況」では、都市計画道路の整備状況が大きく遅れている状況が見られ、交通安全や防災の面からも整備の促進を図っていく必要があります。

一方、良好な住環境の形成に寄与する都市公園や緑地については、市内全域に分布しており、また、向日丘陵の緑なども本市の特色であることから保全と活用を図っていく必要があります。

次に五つ目、「都市機能の現況」でございます。医療施設や介護施設、保育施設、商業施設などの都市機能の分布状況図を見ますと、いずれも市内各地に立地しており、一定の機能が備わっている状況が見られます。しかし、近年転入の多い子育て層や、今後の高齢化の進行による需要の変化に対応した機能の充実を図っていく必要がある

ところでございます。

次に六つ目、「財政の現況」ですが、本市においても歳出では福祉関係の民生費が増加しており、また、経常収支比率も96%を超え、財政構造の硬直が見られます。今後の社会変化に伴うサービス需要の増加に対応するためには、民間活力を導入しサービスの提供やコストの合理化を図る官民連携を取り入れ、財政負担を軽減していくことも必要となっております。

次に七つ目、「産業の現況」ですが、本市の製造品出荷額、小売り年間販売額、経営耕地面積ともに減少傾向で推移しており、市内産業の縮小傾向が見られるところです。今後、雇用や税収の面からも産業の振興や新たな産業の誘致を図っていく必要が生じております。

次に八つ目、「観光の現況」ですが、本市の観光入込客数は、平成20年と比べ倍以上に増加していますので、それに応じた受け入れ体制の充実を図る必要があります。一方で、向日市に対して、特にイメージのない街との評価もあることから、引き続き広報PRを強化する必要が生じております。

次に最後、「防災の現況」ですが、本市の防災マップに掲載されております内水氾濫のマップと南海トラフ地震を想定した想定震度分布図から、本市の住宅地においても大雨による浸水や地震による強い揺れが想定されておりますことから、引き続き災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。

それでは次に、(3)第2次マスタープランの検証としまして、現行計画の期間内に整備されました、主な都市基盤の整備状況を紹介いたします。配付資料の14ページ、15ページになります。

スライドの真ん中にあります図は、現行計画の将来都市構造図となります。この中で、新市街地ゾーンに位置づけられた地区においてですが、こちらにおきましては、土地区画整理事業によって、イオンモール京都桂川を基幹店舗とします「桂川・洛西口新市街地」が誕生しております。また、新市街地ゾーンを通過する都市計画道路

桂寺戸線につきましても両側に歩道を配した道路整備がほぼ完了しております。

次に、新市街地ゾーンと市の中心部であります都市軸につきましても、府道上久世石見上里線と交差点する瓜生・修理式交差点の改良が行われまして、新市街地ゾーンから中心市街地へのアクセス性が向上いたしました。

また、J R 向日町駅、そして阪急東向日駅を結ぶ府道向日町停車場線につきましても拡幅が行われ、都市軸の強化が図られたところでございます。

また、市の南北軸として重要となる通称物集女街道につきましても、最も幅員が狭かった寺戸事務所前交差点を中心とする250メートル区間の拡幅が行われております。

次に、都市拠点に位置づけられております東向日駅周辺においてですが、市役所の東向日別館を含む複合施設が立地し、市中心部のにぎわいの創出につながっております。

そして、向日神社や阪急西向日駅、大極殿公園などを中心とします「歴史資源エリア」におきましては、平成27年2月に国から認定を受けた「向日市歴史的風致維持向上計画」、いわゆる「歴まち計画」を契機に、歴史資源を結ぶ道路の歩道の美装化や大極殿公園の拡張整備、また、阪急西向日駅西口の整備など、歴史資源を保全・活用する整備も進められました。

このように、第2次都市マスの策定以降、新たな市街地や都市基盤の整備が進んだ一方で、持続可能なまちづくりを進めていく上での積み残された課題も生じているところでございます。

まず、一つ目、J R 向日町駅東側ですが、このJ R 向日町駅周辺につきましても、現行の都市マスで都市拠点に位置づけられています。しかし、駅開設当初から東口がなく、駅東側には、J R 貨物の廃線跡地や駐車場などの低未利用地が広がっており、駅の東西で土地利用上の格差が生じているところでございます。

また、J R 向日町駅、そして阪急洛西口駅の鉄道駅周辺に位置しております、ポテ

ンシャルの高い市街化調整区域がございます。これら駅周辺の低未利用地やポテンシャルの高い調整区域におきましても、計画的なまちづくりを行うことで、新たな産業の誘致や駅周辺の魅力、活力を創出し、一段と進む都市間競争、高齢化、人口減少社会に対応していくという必要が生じております。

ほか、既成市街地における安全性の向上を図るためにも、課題のある幹線道路につきましては、拡幅や改良を進めていく必要が生じております。

また、市の中心部を通ります府道向日町停車場線につきましては、交通量が多いにもかかわらず、踏切による交通分断も生じており、昨年のおお阪北部地震におきましても、踏切が閉まったままになり道路交通に大きな影響を与えたところでございます。こういった踏切によります交通分断の解消につきましても、東向日駅周辺の機能強化、また、にぎわい創出とあわせて図っていく必要が生じております。

さらに、本市の貴重な地域資源であります、向日丘陵の竹林や竹の径、また、長岡宮跡、農家住宅等の文化資源につきましても、市民交流や観光資源として保全・活用を図り、後世に残していく必要が生じております。

また一方で、市民への公共サービスや文化活動などの拠点となります市役所本館と市民会館につきましては、皆様ご承知のように老朽化と耐震性能の問題から建てかえが必要となっております。また、写真には掲載しておりませんが、向日消防署につきましても同様の課題が生じているところでございます。

以上、これら、積み残した課題についても対応を図っていく必要が生じているところでございます。

これら本市の状況や積み残しました課題などを踏まえまして、まちづくりにおける基本的な課題として、大きく六つを掲げております。配付資料では16ページになります。

まず一つ目は、「都市の魅力と活力の創出」でございまして、主に、鉄道駅の機能強化や駅周辺の機能の集積、また、新たな産業の誘致などを今後の課題として上げて

いるところでございます。

次に、二つ目が、「交通面の利便性の向上」でございまして、主に、都市計画道路の整備や幹線道路の安全対策、阪急京都線の連続立体交差化などを今後の課題として、上げているところでございます。

次に三つ目が、「限られた土地の効果的な活用」でございまして、今後の課題としまして、市の活性化に資する計画的な土地利用や空き家等対策の推進を挙げているところでございます。

次に、四つ目が、「安心・安全なまちづくり」でございまして、今後の課題としまして、主に、浸水対策や都市計画道路の整備による災害に強いまちづくり、また建物の耐震化などを上げているところでございます。

次に、五つ目ですが、「歴史・文化資源等の保全・活用」でございまして、歴史・文化資源の保全・活用や向日丘陵等の緑地の保全を今後の課題として上げております。

最後に六つ目としまして、「協働によるまちづくり」を上げておりまして、今後の課題として、市民活動団体との連携や民間活力の導入による、まちづくりの推進を上げております。

以上が、基本的な課題でございまして、続いて、第3次都市計画マスタープランの策定について、ご説明させていただきます。

(1) 都市計画マスタープランの位置づけについてですが、配付資料では17ページになります。

都市計画マスタープランですが、都市計画法第18条の2に規定されております「市町村の都市計画に関する基本的な方針」として策定するものでございます。

また、図に示しておりますように、第3次向日市都市計画マスタープランにつきましては、京都府が決定しております京都都市計画区域の整備、開発及び保全の方針や本市の最上位計画、ふるさと向日市創生計画などの上位計画、また、緑の基本計画や公共施設等総合管理計画などの関連計画と整合するように策定を行います。

次に、（２）都市計画マスタープランの役割についてでございますが、主な役割としましては、一つ目が、将来の目標となります具体的な都市像を示す役割がございまして、現行のマスタープランにおきましても、将来都市構造図を位置づけているところでございます。さらに、主な役割としましては、都市計画を決定・変更する際の指針となるものでございまして、現行のマスタープランにおきましても、土地利用方針図に位置づけ、都市計画におきます用途地域などを指定しているところでございます。

次に、配付資料の１８ページになりますが、今回の都市計画マスタープランの構成についてでございます。

全体の構成としましては、現行のマスタープランと同様を考えております。まちづくりの基本方針と都市整備方針からなります「全体構想」と、「主な整備構想」、そして「まちづくりの推進方策」からなるマスタープランを考えております。

また、計画の期間につきましては、令和１２年３月までの１０年間を考えております。

そして最後に、策定の手続について、ご説明させていただきます。配付資料は、資料の１－２でございます。

今後の大まかな予定を掲載しております。

本日、第１回目の審議会では、市の現況課題などについてご意見をいただく予定としております。次に、第２回目は１０月下旬を予定しておりまして、基本方針及び整備方針についてご意見をいただく予定をしてしております。そして、第３回目を１１月に開催させていただき、主な整備構想等及び推進方策についてご意見をいただきたいと思いますと考えております。

その後、年明けの１月にパブリックコメント及び説明会を実施しまして、その後、２月ごろに第４回目のまちづくり審議会を開催させていただき、そこで、案の審議・答申をいただきたいと思いますと考えております。

その後、本市の都市計画審議会にも答申案を報告させていただき、今年度中に策

定・公表を行う予定を考えております。

以上で、簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。

○会長 説明ありがとうございました。

事務局から説明がありましたが、今回の議題は、都市計画マスタープランを、これからどうやってつくっていくかというところなので、とても大事なところだと思います。ぜひとも、ご意見、ご質問を出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 いくつかあるんですが、まず、2の(1)の社会の潮流のところです。

向日市の都市計画マスタープランだといってるので、後に細かく説明されるにしても、向日市の具体的な話を現況で少し語りながら書いたほうがより実践的なのではないかという印象です。余りにも、一般論過ぎるのではないかというように思います。果たして、最初の1ページ目、2ページ目に載せる必要性がどれくらいあるのか。より具体的に、次の(2)以降の話とも絡めながら書いたほうがわかりやすいのではないかというのが1点目です。

あとは、細かいことになるかもしれませんが、それぞれの現況で着目されてる項目は、「一般的にはこうだ」ということが書かれているのだと思うんです。一般的に、マスタープランは個別に縦割りでまとめた形の計画の見え方になってしまう。大変もったいないと思います。最初に書かれている複雑な社会背景をもとにすると、それぞれのテーマが複合的に絡んでいると思います。ぜひどこかで、それぞれの項目の関係性や組立てをしっかりと示すというのが、このマスタープランにも大切なのではないかというように感じます。

もう少し図化されていると、市民の方にはよりわかりやすいのではないかと感じました。今のままだと、あまり読まれなような気がしますね。

○会長 どの市町村も同じようなものだと思います。

○委員 そうです。最初のページから読んでもらいたいのではないかなと思います。

多分、書き方の問題だろうとは思いますが、もう少し、向日市の問題、課題意識と、この社会潮流をあわせるような記述のほうが、「なるほど、これをこの後10年、15年でマスタープランとして位置づけていかなければならない」というのが、より具体的にわかるような表現があるとよいだろうと感じます。

○会長 はい、ありがとうございます。

どこの行政でも、最終的に人口は減るとされている。もちろんそうかもしれませんが、勝つ話というのはあまり書かない。日本全域で人口が減るから、この街も減るんですと素直に言いますが、周りの人口を引き取ってでも、うちは勝つぞというのが見られない。人口の考え方をもう少し強気でもいいのではないかと思う。私もヨーロッパ帰りなので、少し北欧に感化されていて、北欧では人口1.7倍に増やすところから話が入っていったんです。ヨーロッパ中から金持ちみんな北欧に来てもらうんだというようなことを平気で言いながら、マスタープランをつくっている。そういうことも含めて、全体が減るから、減るんですと、簡単に書き過ぎではないかなど、思います。ほかは、いかがでしょうか。

○委員 そういう意味では、強みがあるならば、強調されてもいいのかなという気がします。ただ、そうはいうものの、11ページには、特にイメージのない街というアンケート回答が5割という、悲しい現実もあります。まずは、現況の課題としての記載はありますが、この向日市の特徴をどのようにPRしていくかというところに重点を置く必要はあるのかなというように思いました。

それから、16ページで、阿部先生がおっしゃるとおり、各項目の関連性がわかりにくいと思います。例えば、向日市の現況、人口、土地利用と様々な項目が上がっていますが、これは、現行のマスタープランをふまえた項目立てなのか確認したい。それから、第2次マスタープランの検証について、これはどこから出てきたのでしょうかという2点確認させてください。

○会長 はい、お願いします。

○事務局 向日市の現況の項目については、現行のマスタープランからの引継ぎというわけではございません。現行のマスタープランよりも、より広範囲の分野での統計でございます。

第2次マスタープランの検証についてですが、15ページで、まちづくり上の課題として、写真をピックアップさせていただいていますが、この写真の内容をベースに、まちづくり上の積み残し課題として整理をしているところでございます。

○委員 第2次マスタープランの検証の項目、要は、積み残しの課題が、基本的課題と裏返しの関係として上がってますか。例えば、鉄道による交通分断の解消というのは、基本的課題の中では、何にあたりますか。

○事務局 そうですね。二つ目の交通面の利便性向上の中で、阪急京都線の連続立体交差化による交通環境の改善として、基本的課題にあげています。

○委員 わかりました。関連しているということですね。

○事務局 ただ、ご指摘いただいているように、どこがどうつながっているのか、わかりづらいので、再度見せ方の部分の検証はしていかないといけないと考えているところです。

○会長 第2次マスタープランの組み立てや目次を今回の資料で出されなかったというのは、1から考えてくださいという意味ですか。今までの計画をやり直すのではなく、新たなものとして考えてもらいたいという意味かと感じていたんですが、どうですか。

○事務局 今後、事務局でも、皆さんの議論が進むような形で、一定の案を出しながら、ご意見をいただくような形で進めたいと考えております。本日は、現況課題についてですが、次回の審議会では、資料18ページの都市計画マスタープランの構成で、網掛けしている部分であるまちづくりの基本方針、都市整備方針についてご議論いただきたいなと思っています。主な項目として、基本方針では1、2、3の項目、そして、都市整備方針としても1から5の項目で方針を出させていただいてます。一

定、このような目次となる案をお示ししながら、ご意見いただければと考えているところでございます。

○会長 現行計画の将来都市像は、どのような言葉で書かれていたか。

○事務局 現行計画の都市計画の目標は、「緑と歴史につつまれた美しいまち むこう」というものが、定められております。

○会長 それも変更するということですか。

○事務局 都市計画の目標も含め、現行の都市計画マスタープランは、第5次向日市総合計画の基本構想を受けてつくられております。第5次向日市総合計画の基本構想で将来都市像は「活力とやすらぎのあるまち」として掲げております。これを受けて都市計画の目標としては、先ほど説明させていただきました、「緑と歴史につつまれた美しいまち むこう」として目標を掲げているというような構成になっております。

○会長 同時進行で総合計画の策定を行われているそうですが、そちらのほうの目標は、今はわからないのですか。

○事務局 そうですね。今、最上位計画となります第2次ふるさと向日市創生計画の策定が同時並行で進んでいますので、どうなるのかが見えていないところがあり、今のところは、お示しできません。

○会長 ということで、たたきや案といったものはない状態ですので、今日は、思うことをおっしゃっていただいたらいいと思います。

○委員 私も、いろんな都市計画マスタープランを見ていますが、個人的には、過去の経過、第1次、第2次がどういう目標であって、目標に対しての振り返りを踏まえながら進めていけばいいと思う。達成できなかった問題については、計画、実行、反省という3項目に基づいて、時系列的に検証できないものか。「これは達成できたので、記載はいらぬ。これはまだ反省点があり、さらに推進するので、第3次ではこういうものをつくります。」といった構成を考えてもいいかなと。

今の記載だと他自治体でもしているような一般的な内容がそろえられているように感じる。現況はいろいろあって、課題点はあるが、市全体でみると、明るいイメージになるような今後の目標などをうたっていったほうがいいのではないか。

14ページで、現行都市マスの将来都市構造図が出ていますが、ゾーンごとに具体的な内容をまとめたほうがよりわかりやすいのではないか。向日市は、ゾーンごとの強弱がなかなかつきにくいかもしれませんが、ある程度、ゾーンごとの整備目標のようなものがあると思うので、もう少し強調した形で、まとめたら、今後、基本方針の将来都市像とか都市計画の目標が見えてくるのではないか。特に、都市計画の目標は、単に文言だけだと中途半端になる。都市計画道路を何%達成するなど、ある程度は数値的などころも踏み込んで書いて対応したほうが具体的になり、いいのではないか。全体的に、具体性が乏しい内容だと感じたので、時系列を踏まえた作成、長期的な目で見た計画をつくったらどうかなと思いました。

○会長 ありがとうございます。

地域ごとのマスタープランは現行計画でもつくっていない。市域が小さいのでつくっていないんですか。

○事務局 地域別構想などをつくられている行政もありますが、向日市は市域がコンパクトですので、つくっておりません。

○委員 私は、向日市はもともとベッドタウンというところから始まっているように思っている。この計画の案では、居住人口が増えることが嬉しいように感じますが、観光の話も一緒に書いているところが結構あります。居住人口が増えることがよしとするのか、観光に力を入れることがよしとするのかが分からない。居住と観光を両立させようとする書き方に見えて、実際は、矛盾する部分もあるのではないかと思う。歴史を生かすとか、人と暮らしにとか、住んでいる方にとっていい都市ということを強調するような記載があったと思えば、観光面について書かれていたりするなど矛盾しているように思います。根本的な方針は、何かあるんでしょうか。

○会長　　はい。いかがでしょうか。

○事務局　　まず人口につきまして、やはり、市としましては、今、住んでおられる方々に定住していただくというのが大前提でございます。なぜかと申しますと、やはり、住民の方が定住していただければ、税金としての歳入があります。それによって、行政が市民の方々へ行政サービスを提供することができる。ただ、先ほど、説明の中にもありましたけども、現在、民生費等の経費が非常に大きくなっている中で、財政の硬直化というのもございまして、税金だけでは、サービスを提供することがだんだん難しくなってくる。少子高齢化ということもございまして、生産年齢人口も減ってきておりますので、人口の定住、人口増ができれば一番いいかと考え、今回のマスタープランの中では取り入れております。

観光の点については、向日市には、やはり長岡京という歴史もあり、歴史的資源もございまして。そういったことで観光入込客数を増加させ、観光に来ていただいた方に、お金を落としていただくという面も考えております。そういったことから、このような観光と人口のことをあわせて記載しているところであります。

○委員　　例えば、定住にのみ絞った場合、税収的にどれほどのデメリットがあるのかということもよくわからないんですが、宇治に比べてとか、八幡に比べてとか、向日市がすごく貧弱に見えるように書いてある。今のこの状況から、何か大きな宣伝をして観光客をふやそうとするのか、どれぐらいの税収を目指しているのかということがわからない。京都市の四条みたいに、たくさんの観光客が来たらうれしいのか、それとも、その考え方は間違っているのかなど、しっかりとした方針が決まっているのかどうかお聞きしたい。

○事務局　　先ほど、申しましたとおり、人口については非常に重要です。ただ、向日市は、市街化区域のほとんどに住宅等が建っております。新たに住宅を建てられるようなスペースが、現実的にはないというのが現状でございます。ですので、定住していただく、さらには、持続的に市が発展してくためには、やはり、産業振興というのは

非常に重要になると思っております。

観光につきましては、向日市は、過去に首都であり、歴史的な資産が豊富にあります。一方で、認知度が低い。アンケート結果でも、歴史的資源の豊富さなどが知られていないというような意見もありました。この歴史的資源は向日市の特徴ですので、全国的に発信していく必要があると考えています。

○委員　　プラス観光ということですね。

○委員　　今の話に関連するんですが、都市計画マスタープランで、観光の話をどのように位置づけるかというところがわからない。やはり、最終的な問題の構図化があったほうがいいと思います。おそらく観光面の基本的な課題としては、「歴史・文化資源等の保全と活用」かと思います。しかし、観光が具体的に都市空間にどういった変化をもたらし得るのかというところが、記載されていない気がします。もちろん、観光の話は大切だと思いますが、これを都市計画マスタープランで示すのか、それとも、上位計画である、ふるさと創生計画で示すのかという整理も必要な気がしました。最終的には関連する他の政策との関係も、記載されていたほうがよかろうと、今の議論を聞きながら思った次第です。

16ページの第2次マスタープラン検証を見ると基本的には、市街化調整区域を変える、線引きを変えるということかなと感じました。市街化調整区域を何かしら建てられるように変えていくという話が、まちづくりの整備開発保全の方針と考えますと、開発の話については、分かりやすいと思います。一方で、先ほど、事務局からお話があったように、びっしりと家が建っている既存の市街地について、10年・20年たったときに、その市街地をどのように、再生や元気にしていくなどという視点が、この段階での整理では少し足りないのかなという印象も受けます。

空き家のことが書かれてはいるんですけども、まさに、空き家っていうのは、今の既成市街地のところで発生していく課題だと思いますので、新しく開発するところと、木税市街地の住環境をどのようにするかというところが、見る限りでは構成とし

て欠けているのかなという気がします。ぜひそういったことは含めていただいたほうがいいのではないかと思います。基本的課題のところ、読み取ろうとするならば、「空き家等対策の推進」がありますが、空き家だけではないと思いますし、古い建物の修復などもあります。いろいろ方針が出し得る項目だと思いますので、何本柱でもいいんですが、柱をしっかりと示されるほうがいいんじゃないかなと思います。つまり、今、住まれている方々が、自分が住んでる街、自分の家も含めて、街がどう変わっていくのかというのもし示されているべきなのではないかなと思いました。

○委員　市民が10年20年先の向日市の未来像をどう思われているのか。今、どういうところに課題があると思っているのかというのは、把握されていたりするんでしょうか。もし、把握されているのなら、そういうことも踏まえられていいのかなと思います。観光に関するアンケートのイメージは含まれていましたけれど、街のイメージ、将来の向日市のあり方などについての、意見を吸い上げられているのかどうか。

○事務局　ふるさと向日市創生計画の次期計画を策定中ですが、策定の中で、市民対象のアンケートを7月に実施されています。全般的な集計作業は今行われているところではありますが、その中に、都市計画に関する設問も2問ほど入れております。

例えば、街のにぎわいを創出するための土地利用について、どのようなことを望まれているかということで、「駅周辺のまちづくりはどうですか」ということを聞かせていただいています。東向日駅周辺やJR向日町駅周辺の活性化に対して、「駅周辺の活性化のため、JR長岡京駅前のような店舗や住居が一緒になった高層建築物を立地できるようにする」という設問では、「望ましい」、「どちらかという望ましい」、「現状のままでいい」、「どちらかといえば望ましくない」、「望ましくない」というような5択で聞いております。東向日駅周辺については、約5割が「望ましい」、「どちらかといえば望ましい」という結果になっています。JR向日町駅周辺についても同じような聞き方をしております、こちらは、「望ましい」、「どちらかといえば望ましい」あわせると、約6割弱の方が、そういうような土地利用が

できるようになったほうがいいんじゃないかという回答をされているというようなところでは。

○委員　　という意味であれば、都市の拠点性だとか、そういうことにご関心があるのかなというのを思いましたので、そういうことが、マスタープランの中でも含まれているといいのかなと思います。アンケートが全てじゃないですけども。

○会長　　特にイメージのない街という回答が50%という結果を、平気で言ってしまうのか。とても悲しい結果であり得ないことだと私は思います。もっと、向日市わかるって言ってもらえるような市になろうというつもりが、本当に市役所の方々にあるのかというところが、私は気になるところです。やはり、特別なことしてるから違うというように思われる市になるかならないかだと思うんです。

阪神間だと、例えば、芦屋市は、景観に力を入れていると地価は高くなり、所得階層は高くなる、そういったことが浸透していくんです。全国的に名前をとどろかせている市というのはそれなりに一生懸命頑張っているところがあると思います。

向日市の市街地は建物がいっぱいまで建っているということですが、そんなに高い建物ものじゃなく、2階建ての建物が多く、メインは、住宅地、そういうとても和やかな、いい住宅地になっている部分もある。それほど密集しているというイメージもないし、戸建て住宅が駅近で手に入る。そういう面からも、今のところ、それほど、空き家があるわけではなく、人口密度も高くて、うまいこと人口が収まっているのに、これから人口は減ると予測されている中で、なぜ新しい開発をするのかと思う。

残り少なくなった緑地や農地というのは、課題として転換すると決めたように書いているが、この農地を利用してこそ、住宅地としての知名度、向日市らしさが出るような政策が、もしかしたら打てるかもしれない。私は、この向日市に初めて来たときから、駅近くに農地が広がっており、そういう景観が向日市らしくて、いいなと思ったところもあるので、今ある資源をどう使うかというところをもう少し考えてもいい

のではないかと思います。

さらに、産業を誘致すると書かれていますが、既にある大きな産業をどこかから誘致してくる以外にも、自分たちで、新しい産業をつくり出す視点もありませんか。こんなに立地のいい場所で産業ができる土地があるという街はほとんどないと思います。駅も近く、街も景観もすごくきれいでとてもいい場所。農地や住宅がある場所の産業なので、これからの時代の汚くない、危なくない、そういう新産業を生み出すにはもってこいの土地。みんな楽しく住める市、少し足を延ばせば文化的なものにも触れられ、産業と住まいが共存できるというような言い方ができれば、新しい向日市が見えてくるのではないかと、いろいろな夢を描きます。

○事務局　　実際、観光につきましても、4年前、安田市長が就任されてから、向日市は、歴史的資産はいっぱいあるが、認知度が低い。さらに、訪れていただけないということがあり、まずはイメージ戦略を行う必要があるということで、「むこう、むこう。」のポスターもつくって、まずは、広域的なイメージ戦略を行いました。そして、これからは、具体的な施策について、一つ一つ実行していくということで、お土産物の開発、買う場所についても、今は市内に点在してるので、一つに集約していく。そして農業につきましても、地元の農家の方、本当に一生懸命されています。消費者が非常に近いというメリットがある一方で農家の方々は流通経路に悩んでおられた。それらを解消するため、本年度建設する観光交流センターに集約していくというような取り組みをしております。これにつきましては、1年2年で結果が出る話ではないと思っております、まずは、こういう戦略から入り、今後、肉づけして、向日市を全国的にPRしていきたいと考えております。

○会長　　お土産物つくるという話は、観光ができ上がったときに、目の前に自然と見えてくる。この向日市は何で売ることかというところが、土地理世も含めて、わかりやすく表に出ていないから、イメージがない街なのだと思います。観光で一番表に出てくるのは市民だと思います。まず、市民がどこに住んでるのか聞かれて、向日市に

住んでる。向日市って何があるのと聞かれたときに、市民が広報委員になれるぐらいのわかりやすさがあると思うんです。

今、観光のため、土産物開発してます。農地も大事にしています。だけど、農地は開発しますでは、ちぐはぐな感じがし、わかりづらい。

○委員　私は、ここで示されている観光の現状データ自体は大変貴重だと思いますし、実際そうだと思いますが、やはり、都市計画マスタープランで、観光の話をするときに示すデータではないような気がします。これは産業面を観光でどうするかということだと思います。今のやりとりでも出てくるのは、かなりソフトの話です。それはそれでいろんな戦略があるでしょうし、まとめ方があると思いますが、観光面で資源はたくさんあるがそれをどう守るか、どうプロモーションするかというのは、多分、都市マスの中で位置づく話ではないと、割り切って書かいたほうがいいと思う。観光に絡むなら、都市マスは、何ができるかというところが示されているべきじゃないかなと思います。もし、そういった視点がないのであれば、あえて観光は含めなくてもいいのかもしれないし、含めるならば、何か関連してないといけない。私は都市マスでは、土地の話にどう絡めるかという話になるかと思うが、何となくやりとりが空中戦になってしまうような感覚がある。岡先生から、人口についての話もありましたが、私が最初に素直に読んだときは、産業を誘致するんだというのが先にあって、それに引っ張られる形で人口が少し増えるという感じ方でしたので、積極的に人口も増やすという方針ではないんだろうと感じました。

都市マスの中で、少し言いにくいところもあると思うが、実際、1年ずつ全てのテーマが同じように進んで15年後に完成するというわけでは多分ないですね。その辺を示すことがマスタープランの役割なんじゃないか。実際に事業が進むときのロジックはまた別だと思うので、僕は最初のビジョンを描くときに、戦略というか、こういう流れでやるんだということ自体に、「らしさ」が出るのだというふうに思いますので、やはり、まず構造化が必要ではないかと思います。

その上で、表現の問題なのかもしれないが、先生方ご指摘の強みとして何を打ち出していきたいかというところはしっかりと打ち出す。私も不勉強で、そんなにたくさん歴史的資源があるというのも、実はよくわかってなかったですし、歴まちはどこでもできる計画ではないので、そんなに歴史的資源が多いんだというのが正直な実感だったので、そこはしっかりと打ち出されたらいいんじゃないですか。つまり、保全をしっかりとやるということを、都市マスで訴える。それを観光としてどう受けとめるかはまた別のセクター、別の政策で受けとめるという書き方をして、都市マスの役割自体を明確にする。あと、交通の話も、もう少し明確にしたほうがいいのではないかと思います。次回の基本方針での話かもしれないが、公共交通を充実させたいというのはわかったんですが、市内の各エリアの行き来が、あまりスムーズじゃないという印象がする。このあたりも全体の将来ビジョンなので、交通のところも、もう少し言い切る何かがあったほうがいいかなという気はしました。

○委員 向日市に対するイメージのアンケート結果で、住みやすそうな街というのが5番目だったり、自分が持っているイメージが、非常に低い位置にある。アンケート調査の対象はどの沿線ですか。

○事務局 沿線住民なんですけど、ウェブでのアンケート調査ですので、沿線住民というくくりで、実際に、どこかにフォーカスして調査をしているわけではありません。阪急とJRの沿線にお住まいの方からアンケートに答えてもらっております。

○委員 阪急でいうと、京都線の沿線、神戸線の沿線いろいろあります。JRでいくと、ひょっとしたら、九州の沿線かもしれません。近畿圏なのか、もっと狭い範囲なのか、向日市というものを、最低限わかっている地域の方が答えているのか。

○事務局 基本的には、例えば、JRでいうと、京都線。

○委員 京都線に限ってですか。

○事務局 京都線だったと記憶しています。

○委員 わかりました。もう少し離れていけば、向日市をあんまり知らないと言わ

れても、データは参考にならないなと思ったんですが。

○委員 　いずれにしても、やはりPRが足りないということがあり、今、PRを行っている。ただ、PRをして訪れていただいても、見て回って、周遊するような場所がないというのが現実なので、それを今整備しているのが現状です。

○会長 　先ほども、お話ありましたけど、歴史的風致の要素をマスタープランに落とすようなことは考えられるんですか。

○委員 　計画に基づいて事業も進めてきましたが、頭打ちのようなところもあり、一応、計画はここで終わっています。ずっと続けていけばいいんですが、なかなか財源がついていかないところがありますので、一旦、区切りをつけた上で考えていこうかということです。

○会長 　何か、それを配慮した、ほかの整備というのはあり得るわけですね。

○委員 　一応、基本的な考え方は持っていますので。向日市内には豊富な資産もありますので、活用しないわけにいかないのです。

○会長 　大極殿の公園が、一応載ってますが。

○委員 　吾妻屋もつくってPRしていこうということです。

○会長 　それをしっかりマスタープランの中に含めると、そこに行く道はどうなっているかなど話が出てくると思います。

○委員 　そういう形で、細かく整備はしてきていますが、なかなか大規模な整備ができるだけの財源がないので、厳しいところがある。その現状を踏まえた上でどうしていこうかということで、やはり、前段階で、課題や必要性が求められているということをもとめさせていただいているような形です。特に観光の課題が出てきたのは、従前の計画にはなかったと思います。それを新たに、こういう視点も必要ですよということで整理した資料としてつくってます。ですので、これにこだわる必要はないというようには思っています。

会長がおっしゃったように、市民の方にわかりやすい、街のイメージが出しやすい

マスタープランをつくっていかなければならないですが、国が示すようなものでつくってきているので、どうしてもわかりづらい、市民の方にも理解してもらえない。

○会長　　8ページの都市機能の現状で、都市機能については交通結節点である鉄道駅周辺や幹線道路沿線に多く集積している傾向が見られると書いていますが、傾向が見られるのでしょうか。バス路線を充実させて、市全域にバスをめぐらせるような話をするのか、歩いて駅まで出るような話をするのか、地域ごとに公共施設を分散させるのか、拠点の駅というものを大事にするのかという、その辺の方向性や傾向を見られるのはいいんですが、この課題としてあげている社会変化に対応した都市機能の充実が求められますというのは、どうするのか。駅で充実させるというマスタープランでつくっていったいいものか。向日市というものを考えたときに、本当はどうしていくのがよいのかという議論は、あるんですか。

○委員　　そこまでは議論はないですね。どちらかというところ、一般的な市と同じような形で、計画を立てるといことはおかしいのではないかと。向日市は向日市で独自の路線があるはずなので、マスタープランの検討をしているが、どうしても、法律にのっとってやらなければならないことがある。そうすると、緑はある、開発はある、そういったところは全部残していかなければいけないのか、市街化調整区域というのは、本来、本当に必要なのかという議論もあった。ただ、市の体裁としては、京都府の計画もありますので、全体計画の中で、向日市についても、こういう形で同じようなつくり方をしてきたのが現実です。

今、第2次ふるさと創生計画を策定中で、このマスタープランもそれに合わせたような形でまちづくりをしていこうとしている。ただ、創生計画がはっきりと決まっていないところがありますので、マスタープランについても、今お示しできるだけのものをまとめさせてもらっているのが、現状です。ですから、次回の審議会ではその辺も含めて、ふるさと創生計画に合わせたように、もう少し具体的に、どういう街にしていくのかというのが、出せたらなと思っています。

○会長　それを私たちは受け入れる部分なんですか。

○委員　できれば、それに対して意見を言っていただき、最終的にここでまとめていただいたものをつくるという形で、今は考えています。ですから、今、会長、各委員がおっしゃっていた意見を踏まえた上で、修正するという流れです。

○委員　都市計画マスタープランですので、やっぱり、ゾーン、軸、拠点にどう落とし込むかということが大事になってくると思う。14・15ページで、おそらく拠点は、丸囲みされていると思います。例えば、立地適正化計画もそうですが、交通結節点などは、拠点性を持つ可能性高いので、拠点として指定して、その周辺にどうやって都市機能を集めていくかということを経験されるんですが、まるで交通結節点でないようなところも丸で囲まれたりしていますが、どういう意味で、拠点到されているのかというのが疑問です。

それから、コンパクト・プラス・ネットワークですので、拠点をどう結んであげるかというのが大事になり、拠点をどう結ぶかと考えたときに、このコミュニティバスが全く拠点を結ぶようなルートじゃない。このルートは何か交通のアドバイザーなどの技術的なアドバイス受けていますか。

○事務局　地域公共交通会議でアドバイスを受けています。何年も議論して、最終的にこのルートになりましたが、その前にはいろいろ意見がございました。ただ、向日市はバスが安全に走れる道というのが限られ、交通事業者、警察ともいろいろ議論した中で、安全に走れるルートで、今回運行開始をした。

○委員　脱線するかもしれませんが、コミュニティバスのチラシに関して2、3コメントさせていただきます。公共交通の専門家が入ってルートを決めているのであれば、このルート設計しないです。ダイヤもそうですが、通常30分とか1時間間隔で回していくのが効率的なんです。例えば、38分間隔になると、次を出すのに非効率なんです。休憩時間がどうしても出てきますので、ダイヤもパターン化できない、覚えにくいなど、突っ込みどころが多い。

○事務局　これは行政主導ではなく、専門家の先生、警察、京都府などの方々に地域公共交通会議で議論していただき、最終的にこのルートに決まりました。

○委員　わかりました。何かしらの制約でこうなったとは思いますが、立地適正化の話と公共交通網の話、両輪の話になってきますので、どう拠点をつないであげるか、どう市民が移動するのを手助けしてあげるかという視点からの公共交通の整備も大事になりなので、ぜひ、留意していただければと思いました。

○委員　全体の現況の中で、将来構想とどうつながるかというところの話なんです。まちづくりという言葉の使い方をしっかりと定義されたほうがよいような気がします。単なるハードのみのマスタープランじゃなくて、市民のまちづくり活動を後方支援するというか、そういうテーマに関する方針も位置づけられていたほうがいいと思うんです。それを考えたときに、向日市の現況にどういう整理が可能なのかというところが分からないので、市民のまちづくり活動の観点から、向日市の現況を少し教えていただきたい。市民の景観やまちづくりとして、花壇をどうするか、あるいは、垣根をどうするかなど話でも、多分、いろんな活動がいろんなスケールであると思います。まちづくり活動に関する現況がもし、わかるようでしたら教えてください。

○会長　行政はまちづくりと都市計画を混ぜてに使うんです。

○委員　表現上の問題だと思うが、実際市民レベルでいろんな活動があると思うので、把握されてるされてないも含めて、現況がどうなのかを教えていただきたい。

○会長　言葉も私は整理したほうがいいのではと思う。実は、高校生の都市計画の教科書の中に、まちづくりと都市計画は別物で互いに補完しているというように書きました。ここに出てくるまちづくりという言葉とは違って、住民参加型のはまちづくり、行政主体は、都市計画という書き方をしてしまったので。言葉の使い方は気をつけてほしい。まちづくりといったときには住民の活動となる。

○委員　基本的課題に、「行政・市民・民間の協働によるまちづくり」とあるんですが、向日市の現況から紐づく形になっていないので、整理したほうがいいと思いま

す。大々的に、京都の街中みたいにいろんな人がいろんなことやっているという状況ではないと思うんですが、観光の話とか、あるいは歴史的なものを残す話も含めて、あると思う。市として、いろんな補助をしてきてるといってもおそらくあると思いますので、そのあたり含めて、課題として位置づけるのであれば、現況も整理をしておいたほうがいいのかと思います。つまり、市が主導して何かまちづくりの活動を引っ張っていくわけではないが、ちゃんと後方支援をして、それ自体が街のよさとか、環境改善につながっていくんだという所信表明となるソフトの部分を含めたほうが、より充実した内容になるのではないかと思います。

○会長　　3 ページに官民連携の必要性の高まりとあるが、住民参加型まちづくりは行政にお金がないからするのではない。行政のみでできないから、住民もやってくださいという書き方になっているのが気になります。このあたりもまた見直していただけたら。

○委員　　健康拠点とか、健康軸というのは何ですか。

○委員　　簡単に言うと、市民体育館や温水プールといった健康増進施設があるので、そこを健康拠点として位置づけた。

○委員　　なるほど、そういうことですか。わかりました。そういうのはぜひ、積極的にPRしてもいいのではないかと思います。

○会長　　バスの路線でいうと、市民体育館前のあたりですが、田園の中にあるのですか。

○委員　　市街化調整区域の端になります。

○会長　　ほかはよろしいですか。事務局のほうに、お返ししたいと思います。

○事務局　　それでは、皆様、大変熱心にご議論、ご意見いただきまして、ありがとうございました。それでは、これをもちまして、本日の審議会を閉会させていただきます。

皆様、お忘れ物のないように、お帰りください。本日は、どうもありがとうございます。

ました。

閉会 午後 8 時 3 0 分